

平成29年度第2回木更津市青少年問題協議会 議事録

- 1 日時** 平成29年10月23日(月) 午後1時30分～午後3時05分
- 2 会場** 木更津市役所駅前庁舎8階防災室・会議室
- 3 出席者** 渡辺芳邦会長
委員：渡辺厚子委員、長谷部理絵委員、橋本ミチ子委員、久保弘明委員、地曳文利委員、竹内三郎委員、大西友美委員、尾崎進委員、齋藤和利委員、齋藤富士男委員、榛澤敦子委員、金網房雄委員、山下紀世美委員(19名中13名出席)
※ 欠席委員：神子由之委員、山本昭裕委員、岩崎正人委員、吾津松太郎委員、佐久間裕司委員、富田浩委員(6名)
木更津市教育委員会：高澤教育長、堀切教育部長、齋藤まなび支援センター所長
学校教育課：河野参事、釧持主査
木更津市自立支援課：鈴木参事
事務局(生涯学習課)：秋元課長、池田主幹、深野主事

4 議題

- 委嘱状交付式
- (1) 青少年の居場所を考える
- ア 報告 中学生を取り巻く環境
木更津市教育委員会 学校教育課 釧持 清人 主査
- イ 報告 「寺子屋いわね」の取組みについて
学校支援ボランティア 安藤 順子 様
- ウ 質疑応答
- (2) 意見交換
青少年の居場所づくりにおける協力体制について
- (3) その他

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴者数 なし

7 資料

- (1) 平成29年度第2回木更津市青少年問題協議会会議次第
- (2) 木更津市青少年問題協議会委員名簿
- (3) 資料 中学生を取り巻く環境について
- (4) 資料 寺子屋「いわね」(岩根中学校)

8 会議の概要

【委嘱状交付式】

(司会)

会議に先立ちまして、任期途中ではございますが、委員の変更がございましたので、ただ今から、青少年問題協議会委員委嘱状交付式を開催いたします。

今回は、1名の委員に変更がございましたので、新委員に委嘱状を交付いたします。お名前をお呼びいたしますので、自席にてお受け取りください。

なお、木更津市青少年問題協議会設置条例第4条第1項の規定により、任期は前任者の残任期間となります。

(市長から齊藤委員に委嘱状を交付)

(司会)

ここで、ただ今、委嘱状が交付されました齊藤委員から、ひと言ご挨拶を頂戴したいと思います。

(齊藤委員 自己紹介)

(司会)

ありがとうございました。

以上をもちまして、委嘱状交付式を終了いたします。

【協議会】

(司会)

引き続きまして、平成29年度第2回木更津市青少年問題協議会を開催いたします。

初めに、本協議会の会長であります渡辺市長よりご挨拶申し上げます。

(渡辺会長)

皆さん、こんにちは。市長の渡辺でございます。

本日は、お忙しい中、平成29年度第2回目の協議会にご出席頂き、誠にありがとうございます。また、新たに委員となられました、齊藤委員におかれましては、どうぞよろしく願いいたします。

昨日は大変大きな台風が上陸いたしました。木更津市においても、避難勧告等は発令いたしましたが、幸い大きな被害は発生せず今日を迎えております。皆様にご報告させていただきたいと思っております。準備避難等と避難所を開設させていただきまして、約20の方が公民館に避難されていましたが、その方々も無事にお帰りになられまして、それぞれの避難所も閉鎖をしたところでございます。

また、昨日はブルーベリーランというイベントも予定されていましたが、残念ながら中止になったわけですが、この秋もたくさんのイベントも開催を予定しております。11月3日には市制施行75周年記念式典が予定されておりますので、ぜひご案内させていただいた皆様にはご出席をお願いしたいと思います。

また、最近では皆様ご存知かと思いますが「子ども食堂」が何か所かで行われています。みらいラボ、八幡台、そして岩根東等で行われています。子どもを見守る環境に配慮されている方が増えている気がしています。何とか行政としましても、その方々についてはボランティアということで進んでいますけれども、なんとか応援できるように、今後ともその体制を整えていきたいと考えております。

本日は、「青少年の居場所を考える」をテーマにご協議いただきます。このあと、「中学生を取り巻く環境について」、「寺子屋いわね」の取組みについて、それぞれご報告させていただきます。委員の皆様には、忌憚のないご意見をいただきたいと思いますと考えております。

どうぞよろしく願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。

ここでご報告させていただきます。

現在の出席委員は13名です。設置条例第6条第2項の規定による半数以上の出席がござい
ますので、会議は成立しております。

なお、本会議は、木更津市審議会等の会議の公開に関する条例により公開されていますが、
本日の傍聴人はありません。

以上、ご報告させていただきます。

それでは、議事に入らせていただきます。議長につきましては、渡辺会長をお願いいたしま
す。

渡辺会長よろしくをお願いいたします。

(渡辺会長)

それでは、議長を務めさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

早速議事に入ります。

本日は、青少年の居場所を考えるというテーマで進めて参りたいと思います。

近年、少子化や核家族化が進み、青少年が地域や家庭で異なる世代と交流する機会が減少す
る中、前回の会議でも青少年の居場所づくりの必要性について、委員の皆さんから意見が出さ
れておりました。

今回、青少年の居場所づくり、特に中学生の居場所づくりについて、さらに意見交換を進め
ていく中で、課題などを深めて参りたいと思います。

まずはじめに、教育委員会学校教育課、釧持清人主査から「中学生を取り巻く環境」につい
て、お話をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(学校教育課：釧持主査 資料「中学生を取り巻く環境について」に基づき説明)

(渡辺会長)

ありがとうございました。次に、学校支援ボランティアとして活動されている安藤順子様よ
り寺子屋いわねの取り組みについてのご報告の後、ご質問等をいただきたいと思います。

それでは、よろしくをお願いいたします。

(安藤順子氏：学校支援ボランティア)

こんにちは。学校支援ボランティアの安藤順子と申します。

初めに簡単に自己紹介させていただきます。私は20歳と19歳の子供がいて、高柳小
学校と岩根中学校の方でお世話になっておりました。その間、PTA活動ですとか学校支援ボ
ランティアで活動させていただいて、その延長線上でしている取り組みについてお話させ
ていただきたいと思っております。

いろんな活動が時系列であるのですが、本日は中学生の居場所作りというテーマというこ
とで寺子屋いわねについてお話させていただきます。お手元の「「寺子屋いわね」の取組みにつ
いて」という資料に沿ってお話させていただきます。

まず、寺子屋いわねがどんな活動かということも大事なのですが、どんな活動でも私や私の
周りの人が心掛けていることは、だれでもできそうなこと、できることからやるということ
です。これは高度なこととか難しいことをやった方がよいという意見ももちろんなのですが、
いろんな人に参加してもらったほうが良いということが岩根ではとても大事にされていて、ち
ゃんとした実行委員会を作ってから物事は進めた方がいいのではないかとこの考えもあるの
ですが、それよりもなんでもいいからやってみようというお考えの方が多く、0に0をかけ
ても0だけど、1歩でも進めば1になるのでなんでもやってみようという素地がある地域です。
やり方は柔軟に、信念はブレることなくやろうじゃないかという気運があります。また、3番
目の結果、成果に囚われない緩い感じの雰囲気というのは、もちろん結果や成果が問われるこ
とが物事には多いとは思いますが、学習支援活動というものは、私たちは地域の人間であり
教育者ではなくプロでもないの、成果を求めるといのは方向性が違いますので、「ここに
いていいんだよ。来てくれたんだね。ありがとう。」というような雰囲気づくりというのをどの活

動でも一番大事にしています。

それでは、1番から順を追って説明させていただきます。まず、寺子屋いわねの経緯と活動について、今は2年目で去年から活動は始まっています。更にその前の2015年の12月に地域のまちづくり協議会の人から、中学校での地域の学習支援がすごく必要ではないかと熱いお話を聞く機会がありました。これは、私は岩根地区で青少年補導員の活動をさせていただいているのですが、補導員の忘年会でのことでした。忘年会の場にまちづくり協議会の会長さんがたまたま補導員も兼任されていたので出席されていて、「小学校の学習支援はあるけれど、岩根では中学校の学習支援はあまりないから実現できたらいいんだけどな」というお話でした。私も2015年の時点では子供も高校も卒業しているような時代で、PTAとかいろいろやってきたけれど学習支援は中学校ではやっていないなと思ったので、すごく心に残った出来事でした。

そして、2016年4月に岩根中学校の校長先生が変わられて補導員活動でもお世話になっていた市原先生になって渡りに船というような状況だったので、寺子屋というのはどうでしょうと相談させていただいたら、とりあえずやってみようじゃないかのご快諾いただき、すぐに始めようじゃないかという話になりました。とんとん拍子で話は進み、寺子屋いわねが1回目、2回目と実施するというところまではすぐでした。また、その年の8月に学校支援ボランティア交流集会で、「やり始めたばかりですが、これからもこの形でがんばっていきます。」と実践発表させていただきました。

まず、寺子屋いわねがどんな活動をしているのかということですが、定期テスト前の部活動の停止期間に3日間程度、各学年で教室に分かれて、生徒たちが持ってきたワークと教科書で学習を進める様子を見守るという活動になっています。ボランティアの協力者の方たちに何回か参加してもらっている中で課題が見つかりました。それが資料の2番です。学校の要望としては、寺子屋いわねの教室に行った人には「見ていてくださいね」というスタンスで始めました。勉強は教えるはいけないという訳ではないのですが、「見ていてください」というスタンスです。それをボランティアの協力者の方にも言っているのですが、協力者の人たちに後から話を聞くと、「ただ見ているのは暇だね」という声が多く、生徒が一生懸命やっているのに「がんばってるね」と声はかけられますが「テストはどう？」と雑談する訳にもいかないので、和やかな雰囲気づくりというのも難しく、教えなくていいと言われていたので、「ここ間違っているよ」ということも中々できない状況です。色々試行錯誤をされていて2年目なので、「私だったらこう解くよ」と実演するくらいだったらできるのかなと思っています。しかし、ボランティアの協力者としてもやることなく、学校から必要とされているのかわかりにくく、参加する意義が希薄で私も参加者を募りにくいのです。しかし、やり方は柔軟に信念はブレることなくやろうという信念で、本当に必要であると思って始めた取り組みなので、たとえ色々な問題があったとしてもその都度学び、来ている人から意見を聞いて段々と微調整しているところです。岩根中学校という容器物にあった取り組みを目指して試行錯誤しています。一番大事な主役である生徒さんから見ると、この取り組みは本当に意味があるのかということに関しては難しいところです。ただ、毎週月曜日に挨拶運動の取り組みをやっているの、寺子屋いわねの協力者にも参加してもらっています。朝おはようございますと言うだけの取り組みですが、5、6年続いている活動なので何となく生徒さんたちと地域のボランティアさんが繋がっているという実感はだいぶ芽生えてきたので無駄ではないと思います。あとは本当に学習の支援になればというところが最大の課題だと私は思っています。

昨年度の一年間を通じて活動した上で、岩根中学校にこの活動はどうでしょうかともう一度打診したところ、「教室を見守ってくださる方がほしい。一教室に1~2名いたら中一は図書室、中二は理科室とかできるのだけど」ということで、やはり活動の方針自体は教室を見守ってくれる方が数名いればというスタンスは変わりません。

次に4番の「よかったこと」ですが、岩根地区では4月に高柳桜まつり、10月には防災運動会のいわねEASTふれあい祭りという地域のイベントを最近定期的に行うことができるようになってきました。高柳桜まつりはスタートして7年目くらい、いわねEASTふれあい祭りも今年で2年目を迎えて、中学生の方にボランティアとして参加していただくのもいいかなと思っています、やはり小学生の参加者が多いので、ちょっと年上の中学生が活動していると和やかになっていいかなと思っています。ボランティアする方とされる方が相互的になってきて双方向な活動としては理想的だと思っています。寺子屋いわねの活動としては地域の大人と中学生が顔見知りになれる、イベントがあった時にボランティアとして参加してもらえると

うことで、先ほどの「木更津市トライアングル子育て運動」という三角形の私たちは地域に属していると思うのですが、その具現化ということはできているのかなと思っています。私どもの地域には元教育長の西村先生がいらっしゃいまして、西村先生はボランティアに9割方参加されていらっしゃいます。トライアングル子育て運動の理念の下に活動されているので私たちも共感しています。地域の者として三角形の一端にいないといけないのではないかと自然にそのような気持ちになっています。いろんな協力者がいて、中には「参加してやってる」という人もいますが、回を重ねるごとにそうではないのだなという気持ちを自然に分かっていただけるといいなと思っています。

本日は、寺子屋いわねという中学校の取り組みについてお話させていただいたのですが、この素地には高柳小学校でステップ学習というドリルの丸付けのボランティアがあります。こちらは13年目の活動になっております。一昨年、文部科学省の方に視察に来ていただいて、高柳小学校でも大変士気が上がりました。10年以上続いているドリルの丸付けをするボランティアなのですが、中学校に行った後の子どもたちの様子が変わってきたに違いないと思っています。昔、私の子どもたちが中学生だった頃は文化祭の前に合唱の練習の歌声が聞こえたことは一度もなく、「練習って何」という雰囲気で当日も歌っている生徒が全然なくて、みんなが一生懸命やるのが潔しという気運が一つもない、努力するのがバカみたいな雰囲気でした。しかし、PTAで授業を見守ったり、ボランティアをやったりとその時できることをやってきましたけれど、その間に大人が一生懸命やっていることが通じてくれたのか、今では学校に行くときすごく歌声がきれいで心が洗われるとはこのことではないかと嬉しく思っています。自分の子どもの頃はなんでできなかったのかと悔やまれるところですが、この変化が、高柳小学校のドリルの丸付けを10年続けた成果だったら良いなと思いつつ、岩根中学校の生徒さんの歌声を聞いていました。

地域のボランティアの人が見ているだけではつまらないというお気持ちにお応えして、岩根公民館で「いわねこどもサロン」という寺子屋とご飯を無料でお出しするという活動を先週始めまして、これで地域のちょっとだけ教えてみたいという大人の方が来ていただきまして、学習支援を2時間くらい参加していただける場所を岩根公民館さんにお借りすることで、実現することができたかなと思っています。これはその場所に合った取り組みが大事で、例えば地域の人が「私たちが子どもたちの居場所を作ってやってるんだ。」というのとは違うと思います。中学校側がどんなことを必要としていて、私たちがどんなことができるのかということを探り合わせる作業をしていくことがとても重要で、地域の大人がやるしかないことだと思っています。大人が自己満足でやっていて子どもにとって本当はどうなのかということは自信がありませんけれど、参加している人は子どもたちがちょっとでも喜んでくれたらいいなとか、「来てくれたんだ、ありがとう」という気持ちだけは、参加者は皆持っているもので、それが子どもたちに伝わって、来たら面白かったなとか、学校や家で嫌なことがあったとしてもこんな良い居場所があるのかとか、逆に、こどもサロンでは嫌なことがあって、学校は良いところだなと思うこともあるかもしれないので、ちょっとした色々な居場所作りが地域の人でできたらなと思いつつ組んでいます。

話に取り止めはありませんが、誰にでもできそうなことで今日からできるということにも活動のヒントは必ずあると私は信じています。どうか今日は皆様のいろんな意見を聞いて持ち帰って、活動する原動力になったらなと思って今日は参りました。どうぞよろしくお願いいたします。

ご清聴ありがとうございました。

(渡辺会長)

ありがとうございました。

ただ今、お二方からお話をいただいたところでございますので、ぜひご質問等をお答えいただきたいと思っております。

ご質問等ございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

(渡辺委員)

ありがとうございました。

最初に中学校の取り組みについてお聞きしたいのですが、資料の4ページの清和大学

や高専さんにご協力いただいて関わっていただいていることは私も存じているのですが、どうしても学生さんが通える学校にしか行かれないというように認識しています。何校くらいの学校に学生さんが携わっているのか、また、それが他のエリアにも広げられるような可能性はあるのかまずお聞きしてよろしいですか。

(学校教育課 河野参事)

委員からのご指摘のとおり清和大学の学生が通える範囲なので何校というような正確な数字は出せないのですが、例えば清見台小学校や祇園小学校のような清和大学の周辺の小学校で主に協力いただいているところです。

(渡辺委員)

提示していただいた数校ということなのでしょうけれど、この先広げられる可能性はありますか。

(学校教育課 河野参事)

いずれにしても、移動手段が限られていまして徒歩及び自転車が多くなりますので、例えば、少し離れた馬来田小等は通学には難しいところがございます。

(渡辺委員)

安藤さんからご説明いただいたのですが、学校教育課からの資料の5ページに学校での取り組みの補充学習というところについていくつかあった中で、岩根中の取り組みは補充学習に当たると思いますが、これはあとどれくらいの学校で実施されているのか教えていただけますか。類似の取り組みはあるのでしょうか。

(学校教育課 釘持主査)

全ての学校に調査を依頼して実施状況を把握している訳ではございませんが、多くの中学校において、例えば提出物が手につかない子を見てあげようとか、先生側の方から声をかけて残って勉強していかないかという形で環境を作っております。具体的に何校という把握はできていません。

(学校教育課 河野参事)

ほとんどの学校でテスト前は取り組んでいると思います。ただ、様々な形がありまして、例えば寺子屋いわねさんのような形もあれば、私の前任校は富来田中学校だったので、前は家に帰して「テスト前だから勉強しなさい」という形だったのですが、現在は家に帰っても家庭では勉強できないという子も多いので学校に残して、その教室を先生が回ってテスト対策の勉強をみるという形が増えてきています。その形態はさまざまで、必ずしも寺子屋いわねさんのような形だけではありません。具体的にどのような形態なのかということについても調査をかけて把握しているわけではないので細かいことまでお答えできません。

(渡辺委員)

寺子屋いわねさんの話の関連なのですが、当事者の中学生にとっては学校に放課後残って勉強したほうが集中できるお子さんもいるでしょうし、家に帰ると色々な事情があって勉強しにくいかなと思うのですが、子どもたちにとってはどこで自分が時間を過ごすことでテスト前の対策が一番いいのか、放課後の過ごす時間はどこがいいのかというような選択肢が学校である、公民館である、家である、塾ということもあるのでしょうか、いくつかある選択肢の中で居心地がいい場所が増えていくということはとても良いことだと思っております。なので、居心地がいいかどうかということは、例えば、最初に来たAさんが何度も続けてくる、また、Bさんにとって寺子屋さんが居心地良いから友達を誘ってくる等、子どもたちが継続的にどのくらい参加しているかということとその場所の居心地のよさがある程度わかってくるのかなと思っております。安藤さんたちの指標や手応えがあれば教えていただけますか。

(安藤氏)

特に参加者の名簿を作っているわけではないのですが、中1で参加している子は中2になっても来てくれる傾向が高いことは寺子屋でも確認済みです。ただ、来てくださっていない人にも来やすい雰囲気作りというのは大事なかなと思います。先ほどのお話にあったように、家に帰って勉強できる環境ではないという生徒さんがすごく多いということを知ることが多くて、これは自分がPTA時代には盲点だったかなと思います。帰っても勉強し辛い環境だったから帰らなかつたり遊んでいたりしていたということもあったのかなと、私の認識が足りなかったのかなと思うので色々な居場所作りをすることが、幅が広がっていいということは私も賛成です。

(齋藤和委員)

青少年補導員の齋藤でございます。私が青少年補導員連絡協議会の会長で安藤順子さんが副会長という立場でございます。

補導員の中でも子どもたちの居場所は作っていかないといけないという話をしています。前回も話したかと思いますが、子どもが大人と知り合える場所が学校と家でしかなく、親と先生しか知らないという子が多いのです。ほとんどが学校と家の往復だけであって、そこに寺子屋いわねができたということは大賛成です。安藤さんがFacebookをあげるたびに「いいね！」をして情報を拡散しています。私がやりたいことを先にやられてしまって悔しくてしょうがない気持ちです。

私の勉強不足なのですが学校の中で、教えるのではなくて見守ることしかできないのでしょうか。なぜできないのかわからないので教えていただけないのでしょうか。

(安藤氏)

見守りだけということは少々語弊があるのですが、岩根中学校の校長先生との話し合いの中では、教員ではないということももちろんですが、参加してもらう人に中学生に勉強を教えてねといって募集をすると皆さん遠慮して参加してくれないのではないかなということ、勉強は教えなくても良いので地域の人として、先生が常時教室に居ることはできないので安全面のことも含めて見守ってもらうこととなりました。勉強を教えるなどとは言っていないのです。これには深い意味があると思いました。地域の人が学校と全く違う教え方をして良いわけがないと思います。「そうなんだ。私もできないな、先生に聞いて一緒に学ぼう。」というのがちょうどいいと思います。

(渡辺委員)

見守りという話で、教えるということができなくても、例えば、私はマッサージが得意で色々な人にして差し上げるのです。もちろん自分の子どもの悩みを聞いた後にマッサージしてあげることもあります。よく公民館でやっている自立支援体操だとかをリラックスタイムということで、勉強の合間に私たち大人がリフレッシュできるようなことを挟むことをやってもいいのかなと思いました。これは私の思いつきをやりましょうという話ではないのですが、そのようなことで関わりが持てると思いました。これは中学生にとって余計なお世話になってしまいますかね。見守りだけではない、ちょっとした大人の経験上での知恵で子どもたちが一息つける時間を担当していただけるといいのかなと思いました。

(渡辺会長)

ご意見ということですか。

(安藤氏)

取り入れてみたいと思います。

(渡辺会長)

他にいかがでしょうか。

(金網委員)

寺子屋というのは、学校または学校関係者と綿密に連携協力しているでしょうけれど、地域

主体の地域活動という解釈でいいのですか。それとも学校活動になるのですか。

(安藤氏)

始めは学校支援ボランティアでやっていたのですが、今はまちづくり協議会さんとの共催という形にさせていただいています。まちづくり協議会とはコンセンサスを得て、まちづくり協議会さんの中のメンバーに来ていただいています。まちづくり協議会の中に民生委員さんもいらっしゃって、社協さんの方にももちろんお話させていただいていますので、これから社協さんの方でも寺子屋を展開していく可能性が高いと思うので、岩根地区ではタイアップできるなど楽しみにしています。

(金網委員)

いずれにせよ、地域が主体で、学校と連携している事業ということでよろしいですね。

(安藤氏)

事業というほど大規模ではありませんが地域主体です。

(金網委員)

先ほどの学校の説明資料の5ページの「学校での取り組み」では、定期テスト前の補充学習があってその中で色々な形があって、一つの形として寺子屋さんがあるという説明だったので、では学校が取り組んでいる昔ながらの先生が生徒を残らせて勉強させる学校主体の補充学習もあるけれど、その中に形がたくさんあるという解釈をしたものですからどういうことだろうかと思ってお聞きしました。学校さんの定期テスト前の補充学習というのは部活をしない期間に先生たちが1時間ぐらい指導をするということは今でもやっているということでしょうか。

(学校教育課 河野参事)

先ほども申し上げましたとおり、学校側としましては定期テスト前に様々な形ですべての子どもを対象にして、放課後1時間くらい教員がついています。また、一人の教員がつくだけでなく、国語や英語、数学などさまざまな教科の教員がテスト前に対策をしています。併せて、夏季休業中についても資料には記載しておりますが、夏休み子どもたち、特に総合体育大会を終えて受験を控えている3年生を対象にしております。ただし、最近では、1、2年生の内から学習が苦手な子を夏季休業中に学校で指導していたりもします。また、寺子屋いわねのような形もあり、様々な形で学習支援を行っております。

(金網委員)

もう1点よろしいでしょうか。素朴な疑問なのですが、資料の3ページの学校評価システムの7番目の「今の学校に満足していますか」という項目が小学校と中学校も80パーセント以上と非常に高い数値がでていますが、私たちが子どもの頃はゲーム機もスマホもお金もありませんし缶蹴りしか楽しみが無かったということもありますが、今の事件や様子などの社会状況を見ていると、子どもたちが学校に対してこれほど高い評価をしているのでしょうか。不思議に思ったのでお聞きしました。

(学校教育課 河野参事)

学校の満足度につきましては10年以上継続して学校評価木更津システムは毎年、小中学校に調査をしています。その数値で、年度によって80パーセント前後で多少の差がございます。また、年間2回調査していますので5月と10月の時点では多少数値は変わってきます。ただ、この数値に手は加えていません。学校の中でも年によっては60パーセント台の時もありますし、逆に90パーセントを超えるような中学校も出てくる場合があります。それを平均したものがこの数値になっておりますので、それぞれの中学校での数値はもちろん手を加えているものではございません。

(金網委員)

木更津市の学校が良いということですね。

(渡辺会長)

ありがとうございました。

私から1つよろしいでしょうか。先ほどの学校で取り組まれている補充学習や定期テスト前の放課後の学習の形については、校長先生によって違うのですか。

(学校教育課 河野参事)

学校長によって考え方や捉え方があります。家に帰ってやらせるということに全く意味がない訳ではなくて、自立自立ということがよく言われるものですが、自分で考えてやるという視点で家に帰すという学校も実際にはあります。ただ以前は家に帰ってやるというのがほとんどだと思うのですが、最近では家に帰っても勉強ができないという子どもが増えてきましたので、そういう点で、試験前は早めに家に帰すことが多いのですが、そうではなくて学校に残して、勉強させてから更に家に帰って自分で考えてやろうという捉え方もあります。子どもによってはなかなか自分で課題をみつけることができない子がいますので、補充プリントや今日はこれをやって来ようかという形で課題を提示して、目的を持たせて家で家庭学習をこなす。そういったことが、学校長によって若干の差はありますが、テスト前の家庭学習の必要性については共通の認識が取れていますし、学校評価木更津システムあるいは木更津プランの方にも家庭学習の充実については共通認識が取れているものと考えております。

(高澤教育長)

補足ですが、学校長が声をかけて全校でやりましょうと言う学校もあるのですが、どちらかという学年でやったり学級でやったりという補充学習が多いです。一番の問題は、子どもが家庭で勉強する環境がないというのでしょうか、家庭で勉強できない環境ということをおっしゃる方がいらっしゃるのですが、子どもが家庭で勉強できない環境というのはないと私は思っています。私たちの小さい頃のように家に帰ってお母さんと夕飯の支度をしっかりやらなければいけない子どもは、勉強をする時間が少なくなって差し障りがあつたはずですが、また、家に帰ると兄弟がたくさんいて下の子の面倒を見なければいけないというような、勉強が家ではできない環境がたくさんあつたのです。一方、現在ではどちらかという家に帰って勉強できない環境というよりも勉強しない環境と言いますか、要するに家に帰って勉強する家庭学習の習慣が身に着いていないことが多い。もう一つは、勉強しなければいけないということがわかっていても家に帰っても勉強の仕方が分からないという子どもがすごく多いのです。ですからそのためにも補充学習はすごく意味があることなのです。子どもたちにとって一つ救いになっていることは、質問学習の要素がたくさんあることと、それから、補充学習の延長として家に帰って勉強しましょうという時に、どうやって勉強したらいいのかという勉強の仕方も教わることができますので、補充学習は意味をたくさん持っているのです。ですから、なかなか家では勉強できない環境という、どちらかという家庭で勉強する習慣が身に着いていなかったり、勉強しなければいけないとわかっていながら、どうやって勉強していいのかとやり方が分からないという子どもが比較的多いのだらうなと感じるのです。補充学習はそういう意味で効果があると思います。

(渡辺会長)

ありがとうございました。

補充学習の意味というのは、家に帰っても勉強できるような子にするのか、それとも本当に学習をその場で教えることを目的にするのか、そこをはっきりしていかないと学校長が変わる度にやり方が変わってしまうと思うのです。その辺りがもう少し明確にならないといけないのかなと感じましたので、検討していただきたいと思います。

(渡辺委員)

関連なのですが、家に帰ると勉強できないという環境が昔とは違うという話はわかるのですが、家に帰ってしまうと子どもはスマートフォンでSNSの世界で多くの時間を費やすという割合が本市は少し高いというデータを少し前に伺ったと思います。なので、学校に居られるということはSNSと縁を切っている時間が長いということはすごくいいことだと思うので

すけれど、1点気になったことは学校に生徒さんが居る分、先生が預からなければならない時間が取られるということになります。先生方にとっては負担感が大きいのか、許容範囲内でやっていただけているのか、先生方の実態を伺うことができたと思います。

(学校教育課 河野参事)

教員の時間に関わる主観についての調査は残念ながらとっておりません。ただ職員にとっては子どもたちが少しでも勉強できるような環境を整えることは本来持っている使命だと考えておりますので、テスト前になりますと部活動はございませんので、本来ですとテストを作る時間に費やすべきなのですが、そこはまずは子ども第一、子どもファーストということで学習支援に回った上で、その後にテストの作成に携わるのが普通で、それが何時間テスト作成のための時間を費やしているのかという正確な数値の調査結果はございませんが、いずれにしても勤務時間を過ぎてまでもまでもボランティアで子どもたちのためにがんばっている実態は当然あると思います。

(渡辺委員)

実態を調べていただいて先生方の負担感があるのかないのかということキャッチしていただければいいなと思ったのです。先生方がサービス残業にならずに、気持ちよく負担なくやってくださっていただければいいのですがなんとなく使命感の下、すごく負担になってはいけないと思うので、バランスをとっていただければいいなと思って申し上げました。

(渡辺会長)

ありがとうございました。

それでは次の意見交換に移りたいと思います。まず、3名の方からお話を伺いたいと思います。まずは家庭裁判所の大西委員から日頃感じていらっしゃる事など、何かございましたら、お話しいただけますでしょうか。

(大西委員)

基本的に裁判所で扱う中学生という非行少年になりますので、非行少年の家庭に居場所が無かったり学校にも居場所を見つけられなかったりどこにも居場所がないという中で、不良仲間やよろしくないグループと付き合いようになって非行を繰り返してしまうということがすごく多いので、裁判所からしても居場所作りというのが課題かなと思います。そういったなかで、裁判所が居場所を作るとするのは難しいので、地域の方が作ってくれた居場所に非行少年が馴染むかどうかは別の問題なのかなと思いますが、地域のボランティアの活動が寺子屋とは別の活動、別の形かもしれないのですが、そういうところで居場所が地域の中で増えることによって少年が引かかかることができれば、敢えて不良グループの仲間のところに行くとか、そういうことではなくて何か地域と繋がることできれば非行防止にも繋がるのかなと思いました。なので、居場所作りというのは裁判所にとっても、非常に重要なテーマだと感じております。

(渡辺会長)

ありがとうございました。

それでは、青少年補導員の齊藤委員お願いいたします。

(齋藤和委員)

先ほども質問させて頂きましたが、中学校の寺子屋いわねということで、次のステップとして公民館で「いわねこどもサロン」ですが、先だって市長もご参加されている写真を拝見いたしました。子どもたちの居場所作りということで、学校内での居場所として学習支援と、もう一つ、本来地域で見守るという形で公民館等で子どもたちの居場所を作ってあげたいなと思っております。その中で、勉強しながら若しくは、そこでSNSやゲームをしても良いと思います。「遊びに行くんだったらここで遊んでなさいよ。食べたかったらお菓子もあるからここでちょっとお茶していきなさいよ。お家にお父さんお母さんが帰ってきたら帰ればいいじゃない。その間にもし分からない勉強があったらここで皆で助け合ってみようよ。」と言えるような

場所が各地域にあってほしいなと思っております。そこで、子どもたちの食事という面で、「子ども食堂」が3件ほど立ち上がりつつあるという話を聞いております。今回岩根のほうでご飯を食べられる「いわねこどもサロン」をやられているということで、食料等の調達はどのようにされてますでしょうか。まず1点質問です。

(安藤氏)

今日のテーマではないですが子どもの居場所ということで答えさせていただきます。食材については地域の方から寄付を募りまして、お米とかお野菜とかいただいて、年内は継続できるかなと思っております。また木更津市の素晴らしいところで、八幡台とみらいラボと岩根で子ども食堂が3つ立ち上がったのですけれども、食材については連絡を相互に取り合っ、余剰がある分を他の子ども食堂に回しながら、循環させて連携をとりながらできるシステムがこの3ヶ月でできましたので、本当に木更津市は市民力が強い活発な地域だなと感動しました。

(齋藤和委員)

食材ということで、最近世の中でよく言われているフードバンクですが、私は午前中に生協さんの方と仕事をしておりまして、たまたま千葉の生協連の委員さんとお話したのですが、白井の生協さんのフードバンクを取りまとめている窓口が仲介できるよと言っていました。また、日生協の中にもフードバンクの関連部署といますか、物流関係で扱っている部署もあるようです。そこで、誰に問合せしたらよいのですかと聞いたら福祉協議会を通すと話がスムーズなのではないかとおっしゃっていました。

(渡辺会長)

ありがとうございました。
続いて、金網委員お願いいたします。

(金網委員)

私たち社会福祉協議会は今年度の新規事業として実験的に子どもたちの学習支援事業を計画しております。調整を計っておりまして、今年度事業といっても実際にやれる見込が立っているのは1月から3月の3ヶ月間なのですが、県の社協から補助金を若干もらい、事業として実施予定です。対象は木更津第三中学校区で場所は西清川公民館を予定しております。主体としては、最近では貧困家庭の学習支援というのが多いと思いますが社協がやるので幅広い募集対象を設定しようと考えています。教えてくれる先生は、清和大学さん、木更津高専さん、そして淑徳大学さんの学生ボランティアに声を掛けて来てもらう予定です。先日までの話だと福祉部自立支援課で似た様な事業をやっているの、来年度になったら社会福祉協議会の方で補助金を受けて広げていこうという話ではいたのですが、どうやら予算がつかなかったということなので、方向転換して今年と同じような形で来年も県の社協の補助金を貰いながらもう一年試験的にやろうかなという方向転換の最中です。本来であると学習支援には色々な意味合いがあると思いますが、福祉という立場に立つと貧困家庭を含めた支援については、学習支援をどういう目的でやるかということに問わず、大人が目的を持って子どもたちを集めることになれば、子どもにとっては居場所作りに繋がると思いますので、一つの事業が複数の目的や正確を持ちますので、社協としてもせっかく若手職員が新規事業の中でやりたいということなので、できる限り継続してやって将来的にはそれぞれの学校区や社協の単位くらいで展開することができたらと考えております。

(渡辺会長)

ありがとうございました。
学習支援や子ども食堂についてのお話がありましたが、これについては色々な可能性があると思います。ご意見等ございましたら受けたいと思います。また、意見交換ですので何かありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

(金網委員)

補足ですが、学習支援は毎週水曜日に実施する予定です。

(榛澤委員)

色々なお話を聞かせていただいて勉強になりました。何かしらの形で心の拠り所になるのが望ましいと思います。今は高齢者が増えてきて、高齢者の居場所も問題になっています。真舟地区では65歳以上のお年寄り元気体操をやっているのですが、私は毎週月曜日にボランティアで号令掛けをしています。人数は60人以上いるので二班に分かれて童謡を歌ったり、きさぽん体操をやっています。子どもが独り立ちしてしまった夫婦二人の参加者が多いです。皆さん、話がしたいということで楽しみにして集会所に集まってきます。それで、旦那さんの具合が悪くて毎日看っていて、たまには外に出たいということで一週間に一回はここに来れるから嬉しいという声が多いです。今日のお話の寺子屋やサロンに少しでもお年寄りに来てもらって、おじいちゃんおばあちゃんたちと接触を持つのもいいことなのかなと思います。お年寄りの居場所作りも子どもの居場所作りと一緒にできたら良いのかなと思っています。私は子ども会をやっていますので子どもたちとだけしか関わり合いがないのですが、色々な体験をさせることによって地域の大人と一緒に相互にやりとりができれば、地域の子どもは地域で育てることができると思います。今は大人たちが忙しくなって子どもをみるのも大変なのですが、今でも子どもたちと会うと「あっ、カルタの会長さん」と言ってくれてかわいいなと思います。こうやってお年寄りの居場所もつくれたらいいなと思っています。

(橋本委員)

毎週木曜日に放課後子ども教室を波岡中学校の前の公園でやっています。随分前から学校帰りの中学生が寄って行って遊んだりおしゃべりをしたり手伝っていきます。定期的に支援学級の子も来てくれて、小学校の頃から知っている子どもたちが多いので、進路はどうしたとか特別支援学校に行くという話になった時には、周りの大人が「特別支援学校ってなんだ、どこにあるんだ」という話になり、「この子に合う仕事を見つけて、仕事に就けるように考えてくれるところだからすごくいい学校だね。」という話をするので周りの子どもも支援学校の理解ができるようになるのです。そこがすごく大事だなと思っています。今、子どもの食堂について全社協が旗振りやろうとしていて、全国にアンケートをかけているのです。私たちもアンケートに答えたのですが、居場所として食事をどのくらいの頻度で出すかとか参加者がどれくらいいるかとか細かい項目のアンケートでした。いずれちゃんとした事業になることを期待しています。公民館や子どもたちが寄りやすいところでやってもらえるといいなと思うのと、私の家を使ってもいいよという人が出てくるといいなと思いました。

(渡辺会長)

ありがとうございます。他にございますか。

(渡辺委員)

以前から少し気になっていたのですが、朝のテレビで「注文を間違えるレストラン」というのをやっています。初期の認知症の症状がある方がレストランで注文を受けて配膳をやっているのですが、良く間違えてしまうことがあるのですがお客さんもそれを理解している方がいらっしゃるというものでした。木更津市でも最初に八幡台で子ども食堂が立ち上げられたのを邪魔したのですが、子ども食堂のボランティアにいわゆる軽度の認知症の方を巻き込んだり、別に認知症の方でなくとも先ほどのお話にあった高齢のご夫婦の方に、「作る、配膳する、洗う」というようなボランティアに関わってもらえれば、おじいちゃんおばあちゃんと子どもが関わるので、相乗効果があるのかなと思っています。

(渡辺会長)

ありがとうございます。他にございますか。

(久保委員)

保護司の久保です。本日は貴重なお話をありがとうございます。

学校評価木更津システムについて資料の3ページにあります。1番から7番まであって全体的にどれも数値が高いですが、5番の「先生方の言うことやすることで助けられたことがあ

る」の中学生の57.9パーセントは高いのか低いのかということと、下の「わかる（楽しいと思う）教科はいくつありますか。」と「一週間にどのくらい勉強しますか。」は数字が5年間であり変化が見られないのですが、特に私が気になるのは一週間にどれくらい勉強するのかというところで0と0～6時間を合わせると中学生は60パーセント近くになるのですがこのデータを教育委員会では次に生かしていける仕組みがあるのか教えてください。もう1点は寺子屋いわねさんですが、これは素晴らしい取り組みだと思います。3教室に分かれてやっているということですが何人くらいいるのでしょうか。もうひとつ、他の学校は寺子屋いわねのことを知っているのでしょうか。ぜひ全学校にこういう活動を展開していただければと思います。

（渡辺会長）

それでは、質問に対して回答をお願いします。

（学校教育課 河野参事）

それでは、最初の質問について「先生方の言うことやすることで助けられたことがある」の中学生の数値が高いのか低いのかということですが、大変に荒れている時代でしたら数値が低いのかなと考えます。今、幸いなことに木更津市の学校で新聞紙面を賑わす状況は無いと思います。小学生と中学生の発達段階にもよりますので一概に比較はできないのですが、中学生になってきますと言葉と心の中は思春期を迎えておりますので難しいのですが、約6割の生徒が先生方との関係で比較的良い関係を築いているからこそ、今学校が落ち着いているのかなと考えております。学習時間数の関係ですが調査を取る時期にもよりますが、先ほどからご指摘のあったように、例えばテスト期間ですとこの数値は上がってきます。平均的な数値になってきていますので、必ずしも高いとは言えませんが、家庭学習のできない子どもたちをどうするかを市としても課題として挙げております。この学校評価木更津システムは先ほど申しましたとおり年間で5月と10月の2回とりまして、この数値は1学期末と3学期の初めに学校に市の平均とその学校毎の平均、つまり市の平均値との差を出して、高いのか低いのかを各学校で活用していただいております。

（安藤氏）

まず、寺子屋いわねの活動をご理解していただきありがとうございます。先ほどの質問は3教室の各教室に何人くらいかということでしたが、一概に平均してというのは数字がないのですが少ない時は3人くらいで多い時は30人くらいいらっしゃって、各自勉強している現状がございます。一番最近ですと、10月10日、11日の実施がございまして1教室に15人から20人くらいの参加がありましたが、2年生の参加がなかったということがとてもショックでした。1年生と3年生は15人から20人くらいの参加でした。そして、他の学区にも展開をという話がありましたが、各学校によって現状は違うのだと思います。通塾率の高い学校だと学校での居残りの寺子屋は難しいかもしれないですし、岩根中では家庭での学習が難しい生徒さんが多いという現状のあると思われる地域ですので、寺子屋いわねに関しては必要とされている活動だと思って継続している経緯がございます。

（渡辺会長）

ありがとうございました。

それではそろそろ時間ではございますが、最後に何かある方はいらっしゃいますでしょうか。

（発言する者なし）

（渡辺会長）

本日、青少年の居場所づくりということで大変貴重なお話やご意見を伺うことができました。学習支援にしても子ども食堂にしても色々な主体があり、成熟するためにはとにかく始めていけないのかなと思います。特にこの場に出席いただいている皆様については、それぞれの主体的な活動のなかで先導役だと思っておりますので、ぜひ連携ということについては寛容に受けていただきまして、多様な取り組みが更に広がるように協力いただきたいと思います。

行政といたしましても精一杯やれることを見つけて行きたいと思っております。よろしくお願
いします。

それでは議題の(3)「その他」ということですが、何かご報告事項等はございますでしょ
うか。

(発言する者なし)

(渡辺会長)

ご協力ありがとうございました。それでは司会を事務局へお返しいたします。

(事務局)

長時間にわたり、貴重なご意見をいただきありがとうございました。

以上を持ちまして、本日の協議会の全ての日程を終了いたします。なお、青少年問題協議会
は、今年度も年3回の開催を予定しております。次回は2月6日(火)を予定しておりますの
でよろしくお願いたします。時間、会場、会議内容等の詳細は、近くなりましたらお知らせ
いたします。

それでは、以上で閉会させていただきます。

ご協力ありがとうございました。

本書のとおり相違ないことを証明します。

平成29年11月20日 署名 渡辺芳邦